



学校だより

令和 8 年 8 月 31 日
横浜市立権太坂小学校
9 月号

学校教育目標: 友達が好き 自分が好き たくましく伸びる 権太坂の子

自分の身は自分で守る子どもへ ～ 学校・家庭・地域と連携して ～

校 長 佐々木 和美

子どもたちが夏休みを終え、元気に学校へ戻ってきました。

しかしこの夏休みも全国各地で大雨や台風、地震による災害が発生しました。7 月には「令和 8 年熊本地震」が発生し、熊本県内を中心に建物被害やライフラインへの影響が生じ、多くの方が避難生活を余儀なくされました。災害発生時には、日頃からの備蓄や避難経路の確認、地域での助け合いが重要であることが改めて認識されました。また、8 月には千葉県で線状降水帯が発生し、県内各地で記録的な豪雨となりました。千葉市では観測史上最大級の降雨となり、河川の氾濫や道路冠水、土砂災害が発生しました。気象庁はこの一連の災害を「令和 8 年 8 月千葉豪雨」と命名しており、線状降水帯による集中豪雨の危険性と、早めの避難行動の重要性が改めて示されました。直近では石川・富山・福井にレベル 5 大雨特別警報が出されたすぐ後に、甚大な被害をもたらしています。



多くの方々が不安な日々を過ごされています。一日も早い復旧と、平穏な暮らしが戻ることを願っております。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

こうした災害から改めて感じるのは、「自分の命は自分で守る」という意識の大切さです。学校では地震や火災、土砂災害、不審者対応などさまざまな訓練を行っています。しかし、本当に大切なのは、訓練で学んだことを生かし、いざという時に、子どもたちが自ら考え、判断し、行動できる力を身に付けることです。子どもたちが登下校中や習い事の際、あるいは休日やご家庭で留守番をしている時に災害が起こることもあります。大人がすぐそばにいるとは限りません。そのような場面でも、危険を察知し、安全な場所へ避難する行動が取れる子どもであってほしいと願っています。夏休み後の朝会でも、子どもたちにそのように伝えました。

防災教育は知識を学ぶだけでなく、生きる力を育む教育でもあります。そして、「自助」とともに大切なのが「共助」です。災害時には地域の支え合いが大きな力となります。本校の子どもたちは、日頃から登下校の見守りや地域行事など、多くの地域の皆様に支えられています。顔の見える関係づくりは、非常時の安心にもつながります。ご家庭におかれましても、避難場所や避難経路の確認、防災用品の点検、家族での連絡方法などについて話し合う機会をぜひ設けていただきたいと思います。また、地域の防災訓練に参加することは、防災意識を高める貴重な学びの場となります。

自然災害をなくすことはできません。しかし、正しい知識を身に付け、日頃から備えることで被害を減らすことはできます。本校では今後も防災教育の充実に努め、「自分の身は自分で守る力」の育成を目指してまいります。そして、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを守り育てる環境づくりを進めていきたいと考えています。

そのため、今年度は 11 月 21 日（土）に行う授業参観と権太坂小学校地域防災拠点防災訓練を同日開催とし、地域の方々による、地域のために行う備えとご尽力について、子どもたち同様、保護者の皆様にもご参観していただけたらと考えています。

子どもたちが未来に向かってたくましく生き抜く力を身に付けられるよう、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。